

中部支部におけるシニアの会員継続をめざして

Toward the Senior Members Continue in Central Branch

澁木 雅良 (しぶき まさよし)

シニア活性化委員会委員長

坪田 邦治 (つばた くにはる)

シニア活性化委員会事務局

中野 正樹 (なかの まさき)

シニア活性化委員会事務局

成瀬 文宏 (なるせ ふみひろ)

シニア活性化委員会事務局

1. はじめに

公益社団法人地盤工学会中部支部では、シニアの会員の方々が定年を迎えられた後も、継続して会員活動を行えるような場の提供を目的として、平成25年8月に「シニア会員継続WG」を立上げて活動を開始した。

さらに、平成27年4月からは、より活性化した活動を行うべく「シニア活性化委員会」として活動している。

本委員会では、上記したように、シニアの世代が定年、転職、現場から離れた後も、何らかの形で学会活動に参加でき、また、若手の会員への技術伝承などが可能な場の提供などを計画している。これらによって、持続可能な地盤工学会へ少しでも貢献できることを願っている。

2. 委員会の構成と活動方針

2.1 委員会の構成

シニア活性化委員会では、幅広い意見を集約すべく、学識経験者、調査、設計及び施工の体験を有するメンバーから構成されている(表一)。今後、活動範囲が拡大することを考慮して、増員も計画している。

2.2 活動方針

活動方針に関しては、学会本部が実施したシニアクラスの会員へのアンケート結果から、会員の要望を抽出し、その要望にそった以下のような方針を作成した。

- ① 55～65歳の会員を対象として、定年後も会員を継続して頂くことを中心に活動を計画する
- ② 会費・学会誌に関係することは、本部マターとして、「支部でできることから始める」ということで、「シニアの活動・交流・学習の場」を提供す

表一 委員会の構成メンバー

委員氏名	所 属	部 門
委員長 澁木 雅良	地盤工学会中部支部顧問 (応用地質 顧問)	調査
委員 坪井 英夫	㈱ニューエックス中部支店 技術・後援グループマネージャー	コンサル・施工
〃 白木 敏和	中日本建設コンサルタント 顧問	設計コンサル
〃 中道 育夫	㈱中道コンサルタント 顧問	調査・設計
〃 藤田 学	ジオテック 社長	施工
事務局 坪田 邦治	地盤工学会中部支部顧問 (中土工学会試験協同組合理事)	調査
〃 中野 正樹	地盤工学会中部支部顧問 (名古屋大学大学院工学部助教授)	学識経験者
〃 成瀬 文宏	地盤工学会中部支部顧問 (基礎地盤コンサルタンツ四中部支店)	調査

る

- ③ 「学習・交流の場」として、講演会や見学会と懇親会を組み合わせた場を提供する

3. 中部支部における会員の減少状況

学会の総会員数のピーク値(正会員+学生会員)は、平成9年度末の14,649名であった。一方、中部支部のピーク値は、少しずれて平成12年度であったが、ここでは本部のピーク会員数に合わせて、現在どの程度の減少となっているかを把握した(表一)。

- ① 平成27年10月末の学会全体の会員数の減少率は、0.56であり、中部支部の0.54と大差なく、半減していることがうかがえる。
- ② 学生会員だけで着目すると、学会全体の減少率0.78に比較して、中部支部では1.32と増加している。ただし、中部支部の学生会員数は、平成13年度末の144名がピーク(ピーク値比較では0.57)となっているので、この数値は一概に喜ぶことはできない。
- ③ 学会全体に占める中部支部の会員の割合については、平成9年度末の8.20%に対して、現在の8.00%とほとんど変化しておらず、学会全体の減少と連動していることがうかがえる。

4. 活動の開催状況

4.1 平成25年度懇話会(第1回地盤工学サロン)

第1回の活動として、会員共通の話題である名古屋地盤に関する最新情報を提供した。名古屋地盤図の初版

表一 会員の減少傾向(学会全体、中部支部)

種 別	本部総計 ①	中部支部 ②	②/① (%)
1998年3月末 (平成10年3月末)	正会員	13,728	1,139
	学生会員	921	62
	合 計	14,649	1,201
2015年10月末 (平成27年10月末)	正会員	7,428	570
	学生会員	718	82
	合 計	8,146	652
増減率 (2015/1998)	正会員	0.54	0.50
	学生会員	0.78	1.32
	合 計	0.56	0.54



写真一 牧野内先生による詳細な名古屋地盤解説



写真二 木曾川泥流堆積物を背景に講師・参加者

と最新版(追補版、平成28年3月発行準備中)の比較・解説を、名城大学牧野内猛教授により、「名古屋地盤の今昔を語る」と題してご講演頂いた(写真一)。

従来の名古屋地盤から解釈が新しくなったポイントとして、AT(始良 Tn 火山灰: 29~26 ka)が濃尾層に狭在することが判明したりことで、沖積層として評価していた濃尾層や沖積層基底礫層としていた第1礫層(G1)の年代が古くなったことが特筆される。また、FT年代測定法により、新第三紀層の瑞浪群(品野層)や東海増群(瀬戸陶土層)などの年代が明確になってきたことなどをご教示頂いた。さらに、平成7年の阪神・淡路大震災以降に実施された濃尾平野における反射法地震探査によって明らかにされた東海地域における12本の活断層調査結果の概要などをご紹介頂いた。

4.2 平成26年度見学会(濃尾砂礫層の見学会)

濃尾平野におけるボーリング調査では、よく扱っているが、分布している濃尾層を直接見る機会は少ない。そこで、可見幸彦氏(鶴沼宿ボランティアガイドの会、博士(工学))、西村勝広氏(各務原市歴史民俗資料館館長補佐(当時)、(現在、館長))のご協力を得て、「熱田上部層(鶴沼面、鳥居松面)の見学会」を開催した。

場所は各務原市鶴沼真名越町地内における低位段丘面の掘削現場で、主に濃尾第一礫層、濃尾第二礫層を見学した(写真二)。またその近傍に分布する木曾川泥流堆積物(KMD*)や、熱田層上部層に含まれるオレンジ軽石(6.6~6.8万年前と測定された御岳第三浮石層(Pm-III)(高木:1976、町田・鈴木:1971)も見学した。

併せて、近傍の「鶴沼宿」は、中山道69次のうち52番目の宿場町となっており、江戸時代の往時を偲ぶせる街並み(脇本陣、町屋館など)であることから、鶴沼宿のボランティアガイドによる説明付きで見学できた。

4.3 平成27年度懇話会(第2回地盤工学サロン)

特別講演に、「地下建設工事におけるトラブルサラム地盤と事象・その対応」と題して、橋本正先生(株式会社地盤環境研究所社長)にお願いした(写真三)。地盤工学学会関西支部で、「トラブルサラム地盤研究委員会」が2009年に設立されたが、橋本先生は、その委員長とし



写真三 橋本先生のグローバルな地盤トラブルのご講演

て、国内外における地下建設工事のトラブル事例を研究されている。

今回のサロンでは、上海市の地下建設プロジェクト・高速道路、オランダのトンネルプロジェクト、出水陥没事故、国内の各種プロジェクトにおけるトラブルが生じやすい地盤の特性などについて話題提供して頂いた。

この他、調査編(中道育夫委員)、設計編(白木敏和委員)、施工編(坪井英夫委員)からも、地盤のトラブルに関連して、各立場から、興味深い話題が提供された。

5. まとめ

第1回の懇話会(サロン)開会にあたり、当時の地盤工学会末岡徹会長から以下のような「お祝い」電報を頂き、会場でも披露させて頂いた。

電文紹介(抜粋):「懇話会のご開催を心よりお祝い申し上げます。今後の貴支部における技術及び技術思想の伝承に際し、シニアメンバーの学会参加並びに地盤工学遺産の把握などを含めた活発な活動を期待いたします。」

今後、このご期待に沿った活動を行うことで、会員の継続の一助になり、持続可能な地盤工学会に少しでも貢献していきたい。なお、本活動に関しては、第50回地盤工学研究発表会における特別セッション「ダイバーシティの実現」(2015.9)にて澁木委員長が報告している。

参考文献

- 1) 牧野内 猛: 知多半島の地形地質とそのおいたち, 知多半島が見えてくる本, Vol. 2, pp. 68~71, 2002. (原稿受理 2016.1.5)